

令和7年8月の解説（週間天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、期間前半は、北・東・西日本では高気圧に覆われて晴れた所が多かった。気温が高く、特に南高北低の気圧配置となった5日には、関東甲信地方の各地で日最高気温が40℃を上回り、群馬県伊勢崎では41.8℃と、気象官署等とアメダスを含め、全国での過去最高を更新した。このため、旬平均気温は北・東日本でかなり高くなった。一転して、期間後半には、停滞前線や前線上の低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。東・西日本日本海側と九州南部を中心に、各地で線状降水帯が発生するなど、記録的な大雨となった所もあった。このため、旬降水量は東・西日本日本海側でかなり多く、旬降水量平年比は、東日本日本海側で560%、西日本日本海側で414%となり、1946年の統計開始以降で8月上旬として1位の多雨となった。一方、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて、期間を通して晴れた日が多かったため、旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間は多かった。

中旬は、期間のはじめに前線が東・西日本付近に停滞した影響で、九州北部地方で線状降水帯が発生するなど、東・西日本日本海側では大雨となった所があった。期間の半ば以降は、太平洋高気圧が強まり、東・西日本を覆った。北日本は高気圧に覆われやすかったが、期間の終わりには前線の影響で日本海側を中心に大雨となった所があった。沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多かった一方、台風第11号や熱帯低気圧の影響も受けた。これらのことから、旬降水量は北・東・西日本日本海側で多い一方、東日本太平洋側では少なかった。旬間日照時間は全国的に多く、北日本太平洋側ではかなり多かった。気温は全国的に高く、暖かい空気が流れ込みやすく、また、高気圧に覆われて晴れの日が多かった北日本でかなり高かった。

下旬は、高気圧に覆われて全国的に晴れた所が多く、旬降水量は東日本太平洋側でかなり少なく、旬間日照時間は東日本日本海側と東日本太平洋側でかなり多かった。東日本太平洋側の旬降水量平年比は11%で、1946年の統計開始以降、8月下旬として1位の少雨となった。一方、低気圧や前線が数日の周期で北日本付近を通過し、北海道では大雨となった所があり、29日は青森県で線状降水帯が発生した。また、鹿児島県では台風第12号が21日に上陸し、大雨となった。旬平均気温は、暖かい空気に覆われやすく、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだ日もあったため、北・東・西日本でかなり高かった。30日と31日は、関東甲信地方と東海地方で日最高気温が40℃以上となる地点があった。旬平均気温平年差は、東日本で+3.1℃、西日本で+2.1℃となり、1946年の統計開始以降、8月下旬として1位の高温となった。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値(注)より7ポイント高い76%となった。地方別の適中率では、九州南部地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値より0.6℃小さい1.7℃で、全ての地方で例年値を下回った。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値より0.2℃小さい1.3℃で、全ての地方で例年値を下回った。

(注) 例年の値は、2015 年～2024 年の平均値です。

【10 月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に短くなり、気温が下がってきます。10 月は晴れる日が多く、行楽の機会も増えますが、気温の変化が大きい時期ですので、週間天気予報を利用する際には天気だけでなく、気温にも注意してください。また、平年ではまだ台風の影響を受ける時期ですので、週間天気予報等の最新情報でご確認ください。